

2005 年 8 月 6 日

武庫川流域委員会委員長 松本 誠 様

武庫川流域委員会委員 山仲 晃実

次回武庫川流域委員会（基本高水の審議）に向けて（回答）

いつも非常に熱意を持って、当委員会の運営に努力されているお姿には敬服しております。

以下に私の考えを述べます。

（ 1 ） 基本高水の選定について

河川計画の基になる基本高水の決定が非常に大切なものである事は十分に認識しております。この問題については当委員会としてもかなりの時間を費やしております。また「流出解析 WT」に於いても熱心に検討を重ねられた事は資料をいただいておりますので承知しております。

委員の中には河川、地形、環境、財政、まちづくり、法律などの専門家がおります。これら 25 名の委員の中から専門家と熱意のある方々でこの問題を討議しようという事で作られたのが「流出解析 WT」だと理解しております。

私は自分で分からない事は専門家に任せるという考え方を持っております。もちろん自分でもある程度勉強して信頼できる専門家を選ぶのは当然です。

今回議論の対象になっております基本高水の選定についても「流出解析 WT」に結論を出していただけるなら、その結論に同意するというのが基本的な姿勢です。しかしながら今回委員長からこのような文書が届きましたので私の考えを述べます。

私は「第 20 回流域委員会資料 2 - 1」の表（ 2 ）により基本高水を設定する事に賛成します。

（ 2 ） 上記の理由

カバー率に関してきっちりとした理論的な説明ができないと考えています。言い換えれば恣意的な選択で基本高水が決め得る可能性があるように思います。したがってカバー率と比べ、まだ理論的な説明ができる棄却基準という考え方を採用している表 2 の採用に賛成します。

（ 3 ） これまでに出てきた下記の論点について**引き伸ばし率**

この引き伸ばしという考え方が良いのか良くないのか、正しいのかそうでないのかは判断がつかませんが、降雨という自然現象を整理するためには便利な考え方

だと思えます。

降雨の量といいパターンといい今後どうなるかは分かりません。ただ地球の温暖化により気象は変化し、降雨の量もパターンも同じく変化する事は予想されます。したがって過去の実際の降雨とは異なるパターンの降雨ですがこれを流出解析に用いる事は現状では認めざるを得ないと考えます。

棄却基準

基準の設定に理論的な根拠を与えれば問題がないと考えます。

棄却後の最大値選定

安全性から当然のことと考えます。

観測点の少ない降雨データ

理論的には説明できませんが、小面積に降った降雨と同様に処理して棄却すべきだと考えます。

カバー率の取り扱い

すでに(2)で述べております。

(4) その他(質問)

表(1)と表(2)は異なる降雨倍率で作成されていますがこれは同じ倍率の表のほうが分かりやすいのではないのでしょうか。言い換えればなぜ異なる降雨倍率を使った表になっているのでしょうか。

(以上)